

Remixの凄みを紹介したい

@aiji42_dev



Who am 1?

Uejima Aiji | Twitter: @aiji42_dev

- 株式会社エイチームライフデザイン
- 。 🇘 リードエンジニア
- ● 最近の活動
 - 。 CloudflareでISRを実現したり
 - CSRなサイトをPrerenderでSSRぽくしたり
 - PrismaからSupabase APIを叩くミドルウェア作ったり
 - 。 社内でフロントエンド版ISSUCON開催したり

今日はRemixを紹介したい

パブリックされてから半年間、個人でも社内でもRemixを使い倒したので



この発表をぜひ聞いて欲しい人

- Remixって最近良く聞いたり目にしたりするなー < </p>
- Next.js大好き!正直コレー本で食っていけるよね 😏
 - この発表を聞くと、たとえRemixを使用しなくても実装の仕方の幅が広がることでしょう
- 最近Next.jsがなんか新しいLayoutに関するRF公開したよね
 - そうです、実はRemixがその先駆けです
- Cloudflareってなんか最近勢いあるよね、なんか試してみようかな ◆
 - CloudflareはRemixを語る上で切り離せない話題です

その前にお断り

この発表ではJamstackにもCMSにも触れません。

しかし、Remixが解決しようとしていることは、

今後のReactやフロント界隈の方向性に少なからず影響を与えており、

多くの人に触れてほしい知ってほしいという気持ちで、この発表に臨んでいます。

What is Remix?

- React SSRフレームワーク
- React Routerの開発チームが開発を主導
- 昨年11月末にv1がリリースされたタイミングでパブリックに
- Cloudflare Workersで稼働させられたり、Denoをサポートしていたり
- № のアイコンがよく使われる

Remixの特徴①

loader と action

```
// app/routes/posts/$slug.tsx
export const loader = async ({ params }) => {
  const post = await db.post.findUnique({
   where: params.slug
  })
  return { post }
export const action = async ({ request, params }) => {
  if (request.method === 'POST') {
    await db.post.create({ ... })
  if (request.method === 'DELETE') {
    await db.post.delete({ ... })
  if (request.method === 'PATCH') {
    await db.post.update({ ... })
const Page: FC = () => {
  const { post } = useLoaderData()
  return ...
export default Page
```

loader & action

Next.js の **getServerSideProps** や **API Routes** のようなもの

ページコンポネントと同一ファイルに定義可能

loader

GETアクセス時のデータフェッチを定義 ページ(コンポネント)からはuseLoaderDataで取得し、 useFetcherで再フェッチ可能

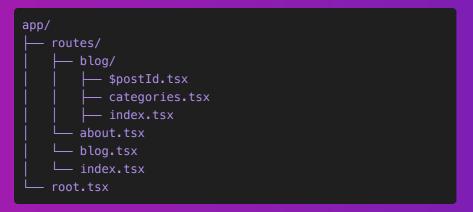
action

POSTやDELETEなどのミューテーションを定義する useSubmit やuseFormAction、form要素からリクエストする

Remixの特徴②

File system routing & Nested Routing (Layout)

レイアウトルート / 共通処理



ディレクトリ構成やファイル名がそのままURLになるという点は、Next.jsのpagesとよく似ている

```
app/
    routes/
    blog/
    bostId.tsx
    categories.tsx
    index.tsx
    blog.tsx
    index.tsx
    root.tsx
```

URL	Matched Route
1	app/routes/index.tsx
/about	app/routes/about.tsx

ディレクトリの入れ子はそのままURLに変換される

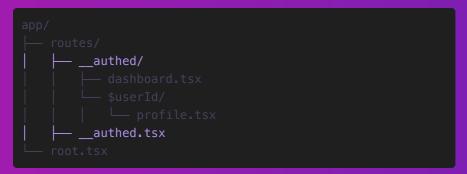
\$(ドルマーク)をつけると、 パラメータとしてloader/actionで扱える

URL	Matched Route
/blog	app/routes/blog/index.tsx
/blog/categories	app/routes/blog/categories.tsx
/blog/my-post	app/routes/blog/\$postId.tsx



root.tsxがトップレイヤレイアウト ディレクトリと同一名ファイルが子レイアウト

URL	Matched Route	Layout
1	app/routes/index.tsx	app/root.tsx
/about	app/routes/about.tsx	app/root.tsx
/blog	app/routes/blog/index.tsx	app/routes/blog.tsx
/blog/categories	app/routes/blog/categories.tsx	app/routes/blog.tsx
/blog/my-post	app/routes/blog/\$postId.tsx	app/routes/blog.tsx



ダブルアンダースコアで始めると URL化されないレイアウトルートになる (pathless layout routes)

```
app/
    routes/
    blog.tsx
    blog.$slug.tsx
    root.tsx
```

ディレクトリ構造の代わりにドットでも表現可能

```
app/

— routes/

| — blog/

| — $postId.tsx

| — categories.tsx

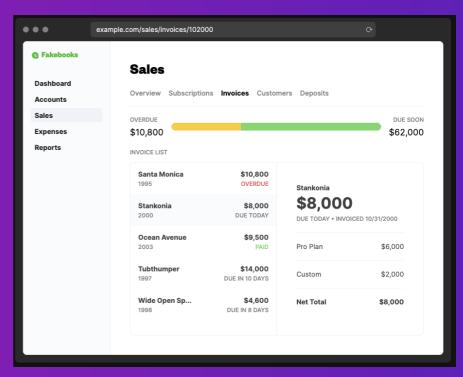
| — index.tsx

| — s.tsx

— root.tsx
```

Catch all route (*)

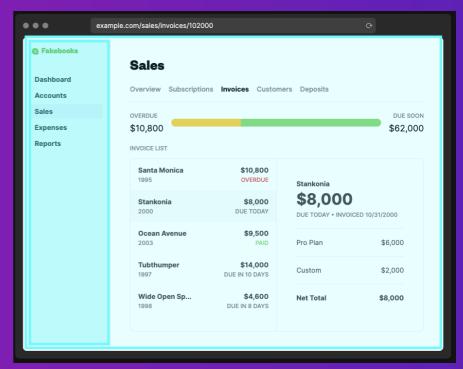
ドキュメントで紹介されている例



https://example.com/sales/invices/102000

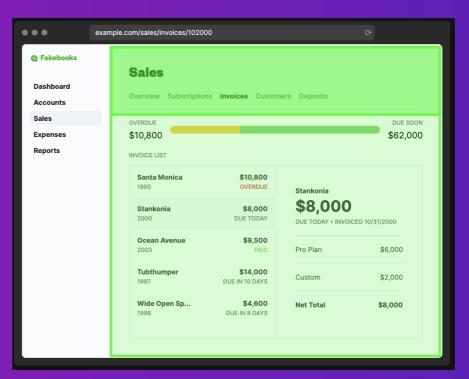
こんな感じのダッシュボード

```
root.tsx
export default function Root() {
 return (
   <Sidebar>
      <Outlet />
   </Sidebar>
```



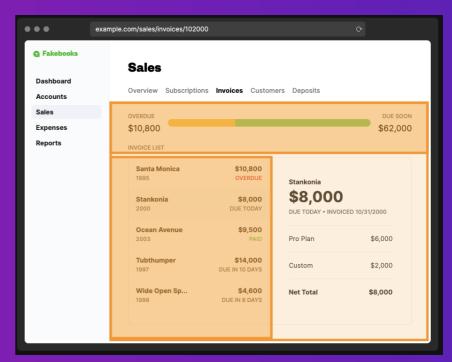
root.tsxがトップレイヤレイアウト

Outletコンポネント部分がレンダリング時に 子レイアウト・子ページになる



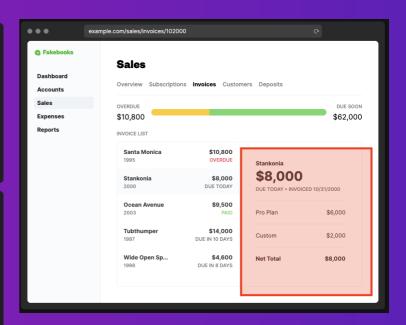
ディレクトリと同一名ファイルで子レイアウトを定義

```
export const loader = async () => {
 const overview = await fetch(...).then((res) => res.json())
 return { overviewData, inviceListData }
export default function InvoiceList() {
 const { overviewData, inviceListData } = useLoaderData()
 return (
      <0verview data={overviewData}>
      <InvoiceList items={inviceListData} >
       <Outlet />
      </InvoiceList>
   </>
```



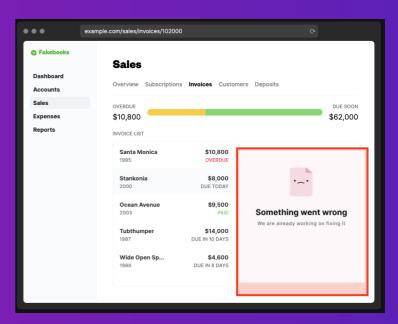
layoutにもloaderを設置可能

```
export const loader = async ({ params }) => {
 const data = await db.invoice.findOne({ where: { id: params.id } })
 return { data }
export default function Invoice() {
 const { data } = useLoaderData()
 return (
   <InvoiceItem data={data} />
export function ErrorBoundary({ error }) {
 return (
   <ErrorMessage>{error.message}
```



各ページ・レイアウトにごとに ErrorBoundaryを定義可能

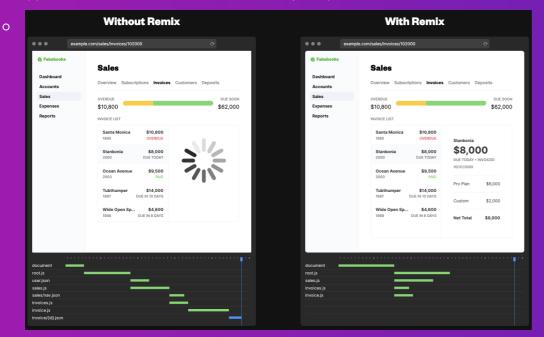
```
export const loader = async ({ params }) => {
  const data = await db.invoice.findOne({ where: { id: params.id } })
  return { data }
export default function Invoice() {
  const { data } = useLoaderData()
  return (
   <InvoiceItem data={data} />
export function ErrorBoundary({ error }) {
  return (
   <ErrorMessage>{error.message}
```



エラーの伝搬を留めることができる フォールバックが最小限になる

Nested Routes があると何が嬉しいか

- レイアウトのグルーピングと階層的な適応
- 並列データフェッチ
 - 各loaderは並列に処理されるため、高速化につながる



○ ロジックの共通化

- 特定ルート配下はログイン必須にするなどの、共通処理を階層的にもたせられる
- o pathless routesと組み合わせて特定のディレクトリ下は暗黙的に認証必須にするなど

○ 差分ロード・再フェッチ

- ナビゲーション時にフルページロードではなく、必要なレイアウトルート分のロードが行われる
- 任意にページ内を更新する再フェッチ処理も実装しやすい。

ちょうど先日Next.jsにも同等な機能のRFCが公開された

Layouts RFC

Tuesday, May 24th 2022 (about 15 hours ago)









https://nextjs.org/blog/layouts-rfc

- 現プロポーザルではおおよそRemixと同等の機能をカバーする予定
 - pathlessやErrorBoundaryに関しても、ドキュメントにはないが「パート2で言及する」とのこと
 - かなりRemixのノウハウが意思決定に影響を与えている印象
 - 。 デフォルトでServer Componentになる (Remixでも同様に議論されており近い将来デフォルトになるはず)

Remixの特徴③

マルチランタイム

- Node / web worker / Deno
- Vercel / Netlify / Cloudflare Workers Pages, etc
- **o** もちろんセルフホスト可能

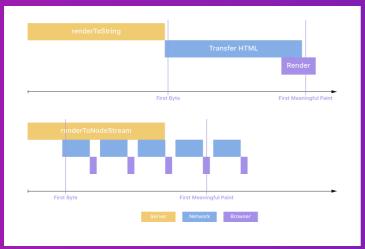


Remixの一番の強みは Cloudflare Workers 上で動くという点だと個人的には思う。

エッジロケーションでレンダリングできるというのは今後のReact界隈において重要な意味をもつ

Reactが向かう先 - Server component / Streaming render

- コンポネントのレンダリングをServerサイドで行うようになる
 - 従来のSSRとはことなり、コンポネントの粒度で解決し、さらにストリームで返却する
 - o src: https://mxstbr.com/thoughts/streaming-ssr/



- 各コンポネントでデータフェッチの処理を持ち、非同期的・自律的に解決する
- 同時接続数は爆発的に増加し、そしてラウンドトリップによるレイテンシが無視できなくなることが予想できる。

そんな未来を見据えると

- エッジファンクション(ロケーション)がオリジンとして機能する
- スケールあまり意識しなくて良い
- 1リクエストあたりのコストが安価

という点は大きなアドバンテージになる

だからCloudflare Workers上で動くというのは大きな意味を持つ

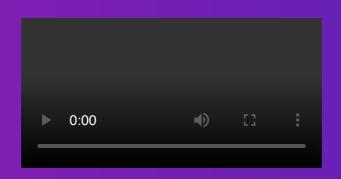
Next.jsも昨年のエッジファンクション(middleware)の発表を皮切りに、エッジレンダリングを模索している RFC: Switchable Next.js Runtime #34179

Remixの特徴 ④

Formとヘルパー

前述のactionと通信を行うための、Formコンポネントや多数のヘルパーを備えている

特に **useTransition** はフォームのsubmitの状態 (idle / submitting / loading)を管理したり submit中のデータを取り扱うことが可能なので、楽観的UIの実装も容易



```
import { ValidatedForm } from "remix-validated-form";
import { withZod } from "@remix-validated-form/with-zod";
export const validator = withZod(
export const action = async ({ request }) => {
  const result = await validator.validate(await request.formData());
  if (result.error) return validationError(result.error);
  const { firstName, lastName, email } = result.data;
};
export default function MyPage() {
  return (
    <ValidatedForm validator={validator} method="post">
      <FormInput name="firstName" label="First Name" />
      <FormInput name="lastName" label="Last Name" />
      <FormInput name="email" label="Email" />
      <SubmitButton />
   </ValidatedForm>
  );
```

remix-validated-form

https://www.remix-validated-form.io/

remix-validated-formとzodを使用するとactionとコンポネントを一体化できる

クライアントとサーバとでバリデーションを共通化でき るだけでなく

エラーメッセージの返却・レンダリング、例外処理の実 装から開放される

別のデータソースと通信して別途バリデーションするなど、サーバサイドオンリーなバリデーションもかんたん に追加可能

Remixの特徴 ⑤

Cookieヘルパー

CookieやSessionを取り扱うためのヘルパーが標準装備

シリアライズ&検証の機能もデフォルトで実装されている

loader/actionと組み合わせることで、 これまでフロントに実装していたステート管理や認証などをサーバサイドへ移譲できる

ロジックがフロントに露出しないため、

秘匿性の高い情報の漏洩防止や、バンドルサイズの軽減につながる

```
export const loader = async ({ request }) =>
 supabaseStrategy.checkSession(request, {
   successRedirect: '/private'
 });
export const action = async ({ request }) =>
 authenticator.authenticate('sb', request, {
   successRedirect: '/private',
   failureRedirect: '/login'
 });
export default function LoginPage() {
 return (
   <Form method="post">
      <input type="email" name="email" />
      <input type="password" name="password" />
      <button>Sign In</putton>
   </Form>
```

remix-auth

https://github.com/sergiodxa/remix-auth (サンプルコードはremix-auth-supabase)

認証方法・認可ルール・フォールバックルールなどを簡単に設 定・制御できる

クライアント側には一切ロジックが露出しない

実用に耐えられるの?



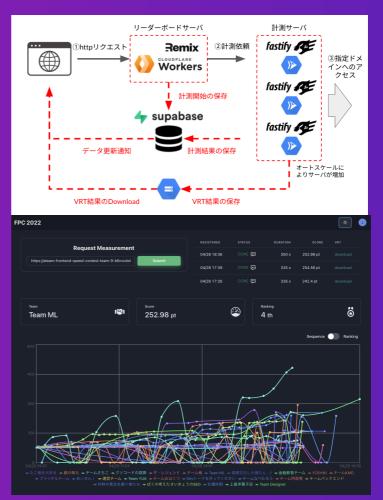




先日社内のエンジニア・デザイナ(総勢80人強)でフロントエンド版Isuconを開催しました。

運営である自分はRemix、Supabase、CloudflareWorkers でリーダーボードを作成したのですが、トラブルなくすんなり同時接続を捌いたのを見て、上記構成のポテンシャルを肌で感じました。





他に個人開発サービスの運用実績、社内での実サービス開発への導入実績も

実際に得られた恩恵

- ステート管理ライブラリが不要
 - 。 前述の通り
- 認証ロジック・データフェッチロジックすべてがサーバサイド完結
 - クライアントの実装はデータの描画のみに集中できる
- **情報更新をきめ細かくリアルタイムに、かつ高速に**
 - 前述の例ではSupabaseのsubscribeと組み合わせて、DBに変更が加わったらスタッツを再フェチする
 - ネストされた部分的なレイアウトのみ再フェッチ(フルページロードしない)
 - 実際のデータフェッチはloader側で行うので、ロジックは一切露出しない

○ エッジレンダリング(Cloudflare Workers)による恩恵

- ゼロコールドスタート
 - KV使わなくても、200-300msで応答できる(TTFB)
 - 。 同一構成の Next.js on Vercel のSSRで300-500ms
 - 。 KV使えばSSRで60-80ms
 - o もちろんデータソースに引っ張られるが
- スケールを気にしなくて良い

苦しみ

- Nested Routeは想像以上に難易度が高い
 - URL設計とディレクトリ設計をセットで行わなければならない
 - 良くも悪くもロジックが分散し、脳内メモリを圧迫する
 - 実際ネストは2階層くらいにとどめておくのがよい
 - 最初のサンプルに上げたような構成は正直無理

Workersに限った話になるが。。。

○ UIライブラリ入れると1MBにバンドルサイズを抑えるのは結構きつい

- SSRなので全てバンドルしないといけない(チャンクもできない)
- 。 Service Bindingsを駆使して回避した

○ まだまだWorker非対応なライブラリが多い

- esbuildでpolyfillしたり、injectしたりなど職人芸が求められる
- しかし、そもそもRemixのコンパイラ(esbuild)の設定の拡張が不可能
 - next.config.jsからwebpackの設定をいじるみたいな感じのことはできない
 - 拡張自体がコミュニティのポリシー的にNG (マネジメントコストとリスクの問題)
 - 何度もDiscussionやPRは起票されているがことごとくリジェクト
- 最終的に自分でRemixのesbuild を拡張可能にするプラグインを書いた
 - https://github.com/aiji42/remix-esbuild-override

相性の良いサービスやサイト

次のようなケースならNext.jsで実装するよりもRemixで実装したほうが開発コストは小さくなる(と個人的には思う)

○ React Router で構築されたSPAサイトをSSRに移行したい、SEO対策したい

React Routeの思想をベースに構築されているため、大きく構造を変えずに移行できる

○ 複数ページに渡るエントリーフォームを簡単に実装したい

- 前述の通り、remix-validated-formとzodで簡単に作れる
- o ステートライブラリも不要
- MVCなWebフレームワーク(Rails)使ってた人は比較的とっつきやすい(と個人的には思う)

○ 管理画面やダッシュボードをフルスクラッチしたい

- React Adminの導入を試みたが、データスキーム・ビジネスロジックに適したアダプターがなかったなど
- o Nested Routes と remix-validated-form, remix-auth を駆使する
- 。 loader/actionを各フォームやデータフィードと1対1で配置し、UIとデータロジックをそれぞれで凝縮
 - テスタビリティの向上にもつながる

まとめ

なんと言っても

- Cloudflare Workerで動く
- Nested routesの先駆け
 - レイアウトとデータフェッチロジックの分散管理
 - 。 Next.jsに影響を及ぼす程の先見性

この2つを備えていて、ここまで完成度の高いフレームワークは他にはありません。 メインで使うフレームワークとまはいかなくても、一度試す価値はあると思います。

Next.jsの新しいLayout戦略がGAされるまでの素振りとしても、良いサンドボックスになると思います。

One more thing

Next.jsにRemixのエッセンスを取り入れる

```
import { handle, json, Form, useFormSubmit } from 'next-runtime';
export const getServerSideProps = handle({
  async get() {
    return json({ name: 'smeijer' });
  async post({ req: { body } }) {
    await db.comments.insert(body);
    return json({ message: 'thanks for your comment!' });
 },
});
export default function MyPage({ name, message }) {
  const { isSubmitting } = useFormSubmit();
  if (message) return {message};
  return (
    <Form method="post">
      <input name="name" defaultValue={name} />
      <input name="message" />
      <button type="submit" disabled={pending}>
        {isSubmitting ? 'submitting' : 'submit'}
      </button>
   </Form>
```

next-runtime

https://next-runtime.meijer.ws/getting-started/1-introduction



getServerSidePropsを拡張し、リクエストメソッドごとに 実装を書き分けることができる

フォームのアクションをapi routesにせず、自パスに向ければ、擬似的なloader/actionになる

楽観的UIのためのヘルパーやCookieを取り扱うヘルパーなどが用意されており、かなりRemixに似ている

というか、Remixをインスパイアされて実装したと作者がドキュメントで 明言している

こちらの記事でも紹介しています

Remixのコンセプトの一部を Next.jsに導入する(next-runtime)





https://zenn.dev/aiji42/articles/23a88a7b111694